

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	東海財務局長
【提出日】	平成29年5月12日
【四半期会計期間】	第51期第1四半期（自平成29年1月1日至平成29年3月31日）
【会社名】	株式会社電算システム
【英訳名】	Densan System Co., Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長執行役員 田中 靖哲
【本店の所在の場所】	岐阜県岐阜市日置江一丁目58番地
【電話番号】	058 - 279 - 3456
【事務連絡者氏名】	執行役員管理本部長 近藤 登
【最寄りの連絡場所】	岐阜県岐阜市日置江一丁目58番地
【電話番号】	058 - 279 - 3456
【事務連絡者氏名】	執行役員管理本部長 近藤 登
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号） 株式会社名古屋証券取引所 （名古屋市中区栄三丁目8番20号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第50期 第1四半期連結 累計期間	第51期 第1四半期連結 累計期間	第50期
会計期間	自平成28年 1月1日 至平成28年 3月31日	自平成29年 1月1日 至平成29年 3月31日	自平成28年 1月1日 至平成28年 12月31日
売上高 (千円)	7,220,907	7,963,547	30,369,587
経常利益 (千円)	206,773	379,466	1,157,141
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益 (千円)	139,305	235,223	732,361
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	36,539	203,366	682,248
純資産額 (千円)	7,915,014	8,719,102	8,613,426
総資産額 (千円)	31,262,335	40,927,630	44,991,092
1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	14.38	24.13	75.42
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	14.37	-	75.40
自己資本比率 (%)	25.0	20.9	18.8

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

- 1株当たり四半期(当期)純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額の算定上の基礎となる普通株式の期中平均株式数については、電算システム従業員持株会信託が保有している当社株式を控除対象の自己株式に含めて算定しております。
- 第51期第1四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
- 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績の状況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業収益の回復基調や雇用環境の改善傾向で推移しております。しかしながら、世界景気の不確実性は高く、先行き不透明な状態で推移しております。

このような経営環境において、当社グループは、新しい価値の創造により、顧客に感動を、社員に夢を、株主に満足をもたらす経営理念のもと、さらなる業容の拡大と成長を志向し、継続的な営業努力と効率的な事業運営に努め、経営計画の達成を目指してまいりました。

各セグメント別の概況は以下のとおりとなっております。

(情報サービス事業)

S I・ソフト開発及び商品販売においては、株式会社ゴーガを前第4四半期連結会計期間より新たに連結の範囲に含めたことなどにより、クラウド関連サービスの売上が順調に推移いたしました。また、交通移動体向けクラウド型デジタルサイネージ販売、大手ゼネコン向け機器販売、地方自治体向けのシステム機器導入、エネルギー業向けの業務システムなどにより売上が伸びました。情報処理サービスにおいては、請求書作成代行、地方公共団体向け処理などの売上が順調に推移いたしました。

以上の結果、情報サービス事業の売上高は42億11百万円(前年同期比12.4%増)、営業利益は2億36百万円(前年同期比162.7%増)となりました。

(収納代行サービス事業)

収納代行サービス事業においては、2月の収納日がうるう年であった前年と比較して、1日少ない影響を受けたことなどにより払込票減少の影響を受けたものの、第1四半期を通しては計画を上回ることができました。地方自治体を含む新規取引先の獲得件数やスーパーマーケット及びドラッグストアチェーン店舗向けの収納窓口サービスの導入店舗数もほぼ計画通りに増加いたしました。

以上の結果、収納代行サービス事業の売上高は37億51百万円(前年同期比8.0%増)、営業利益は1億50百万円(前年同期比2.3%増)となりました。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間における売上高は79億63百万円(前年同期比10.3%増)、利益においては、営業利益は3億64百万円(前年同期比82.5%増)、経常利益は3億79百万円(前年同期比83.5%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は2億35百万円(前年同期比68.9%増)となりました。

(2) 財政状態の分析

当第1四半期連結会計期間末の資産は、前連結会計年度末と比較して40億63百万円減少し、409億27百万円となりました。これは主に、金銭の信託が31億35百万円、現金及び預金が7億87百万円、受取手形及び売掛金が1億63百万円減少したことによるものであります。

当第1四半期連結会計期間末の負債は、前連結会計年度末と比較して41億69百万円減少し、322億8百万円となりました。これは主に、賞与引当金が2億68百万円増加したものの、収納代行預り金が40億15百万円、未払法人税等が1億45百万円、その他流動負債が1億86百万円減少したことによるものであります。

なお、金銭の信託及び収納代行預り金は、収納代行サービス事業に係る預り金が含まれており、預り金の入金タイミングの影響を受けたことにより減少しております。

当第1四半期連結会計期間末の純資産は、前連結会計年度末と比較して1億5百万円増加し、87億19百万円となりました。これは主に、利益剰余金が1億17百万円増加したことによるものであります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	29,760,000
計	29,760,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末現在発行数(株) (平成29年3月31日)	提出日現在発行数(株) (平成29年5月12日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	10,040,000	10,040,000	東京証券取引所 名古屋証券取引所 (各市場第一部)	単元株式数は100株 であります。
計	10,040,000	10,040,000	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額 (千円)	資本準備金残 高(千円)
平成29年1月1日～ 平成29年3月31日	-	10,040,000	-	1,229,213	-	929,069

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7)【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成28年12月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成29年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 254,800	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 9,783,000	97,830	-
単元未満株式	普通株式 2,200	-	-
発行済株式総数	10,040,000	-	-
総株主の議決権	-	97,830	-

(注)上記「完全議決権株式(その他)」欄の株式数には、信託型従業員持株インセンティブ・プランの信託財産として、電算システム従業員持株会信託が保有している当社株式41,700株が含まれております。なお、当該株式は四半期連結財務諸表において自己株式として表示しております。

【自己株式等】

平成29年3月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
(自己保有株式) 株)電算システム	岐阜市日置江一丁目58番地	254,800	-	254,800	2.53
計	-	254,800	-	254,800	2.53

(注)上記のほかに信託型従業員持株インセンティブ・プランの信託財産として、電算システム従業員持株会信託が保有している当社株式41,700株を、四半期連結財務諸表において自己株式として表示しております。

2【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（平成29年1月1日から平成29年3月31日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成29年1月1日から平成29年3月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,655,401	4,867,528
金銭の信託	27,738,973	24,602,997
受取手形及び売掛金	4,906,446	4,742,884
商品	110,909	153,152
仕掛品	518,100	441,148
前払費用	628,652	641,078
繰延税金資産	62,678	99,675
その他	125,537	176,149
貸倒引当金	500	451
流動資産合計	39,746,199	35,724,162
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	1,215,438	1,194,870
土地	791,098	791,098
その他(純額)	766,150	740,816
有形固定資産合計	2,772,686	2,726,785
無形固定資産		
のれん	445,524	433,230
ソフトウェア	551,591	539,960
ソフトウェア仮勘定	158,217	218,804
その他	48	48
無形固定資産合計	1,155,382	1,192,044
投資その他の資産		
投資有価証券	931,238	893,990
繰延税金資産	7,640	7,854
差入保証金	337,768	336,443
その他	40,414	46,706
貸倒引当金	239	356
投資その他の資産合計	1,316,823	1,284,638
固定資産合計	5,244,893	5,203,468
資産合計	44,991,092	40,927,630

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年3月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	2,288,587	2,237,303
短期借入金	20,990	65,511
1年内返済予定の長期借入金	241,118	196,540
未払法人税等	330,615	185,440
収納代行預り金	30,504,227	26,488,920
賞与引当金	3,483	272,316
役員賞与引当金	1,000	8,037
株主優待引当金	50,028	47,848
債務保証損失引当金	43,619	43,619
その他	1,528,690	1,342,234
流動負債合計	35,012,360	30,887,771
固定負債		
長期借入金	828,624	796,485
繰延税金負債	39,211	24,988
役員退職慰労引当金	235,729	237,083
退職給付に係る負債	22,409	23,035
資産除去債務	12,279	12,317
その他	227,051	226,845
固定負債合計	1,365,305	1,320,755
負債合計	36,377,666	32,208,527
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,229,213	1,229,213
資本剰余金	929,069	929,069
利益剰余金	6,307,977	6,425,778
自己株式	182,204	162,022
株主資本合計	8,284,054	8,422,037
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	161,288	119,578
繰延ヘッジ損益	1,630	3,794
その他の包括利益累計額合計	159,658	115,784
非支配株主持分	169,713	181,281
純資産合計	8,613,426	8,719,102
負債純資産合計	44,991,092	40,927,630

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年1月1日 至平成28年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年1月1日 至平成29年3月31日)
売上高	7,220,907	7,963,547
売上原価	6,055,255	6,567,338
売上総利益	1,165,652	1,396,208
販売費及び一般管理費	965,821	1,031,594
営業利益	199,830	364,613
営業外収益		
受取利息	384	267
受取手数料	1,956	2,153
投資有価証券売却益	-	7,989
為替差益	4,883	4,176
未払配当金除斥益	223	131
その他	229	3,266
営業外収益合計	7,677	17,984
営業外費用		
支払利息	487	826
持分法による投資損失	247	936
投資事業組合運用損	-	1,369
営業外費用合計	735	3,131
経常利益	206,773	379,466
特別利益		
補助金収入	112,481	-
特別利益合計	112,481	-
特別損失		
固定資産圧縮損	92,572	-
特別損失合計	92,572	-
税金等調整前四半期純利益	226,681	379,466
法人税、住民税及び事業税	138,424	168,125
法人税等調整額	54,293	35,899
法人税等合計	84,131	132,225
四半期純利益	142,550	247,241
非支配株主に帰属する四半期純利益	3,244	12,017
親会社株主に帰属する四半期純利益	139,305	235,223

【四半期連結包括利益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年1月1日 至平成28年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年1月1日 至平成29年3月31日)
四半期純利益	142,550	247,241
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	106,010	41,710
繰延ヘッジ損益	-	2,164
その他の包括利益合計	106,010	43,874
四半期包括利益	36,539	203,366
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	33,295	191,348
非支配株主に係る四半期包括利益	3,244	12,017

【注記事項】

(追加情報)

(従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する取引)

当社は、従業員への福利厚生を目的として、「信託型従業員持株インセンティブ・プラン」を導入しております。当該信託契約に係る会計処理については、「従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する取引に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第30号 平成27年3月26日)を適用し、信託から従業員持株会に売却された株式に係る売却差損益、信託が保有する株式に対する当社からの配当金及び信託に関する諸費用の純額を資産又は負債に計上しております。

(1) 取引の概要

信託型従業員持株インセンティブ・プランは、電算システム従業員持株会に加入するすべての従業員を対象とするインセンティブ・プランです。信託型従業員持株インセンティブ・プランでは、当社が信託銀行に「電算システム従業員持株会信託」(以下、「従持信託」といいます。))を設定し、その設定後3年間にわたり電算システム従業員持株会が取得すると見込まれる数の当社株式を予め取得します。その後は、従持信託から電算システム従業員持株会に対して継続的に当社株式の売却が行われるとともに、信託終了時点で従持信託内に株式売却益相当額が累積した場合には、当該株式売却益相当額が残余財産として受益者適格要件を満たす者に分配されます。なお、当社は、従持信託が当社株式を取得するための借入に対し保証することになるため、当社株価の下落により従持信託内に株式売却損相当額が累積し、信託終了時点において従持信託内に当該株式売却損相当の借入金残債がある場合は、保証契約に基づき、当社が当該残債を弁済することになります。

(2) 信託に残存する自社の株式

信託に残存する当社株式を、信託における帳簿価額(付随費用の金額を除く。))により純資産の部に自己株式として計上しております。

自己株式の帳簿価額および株式数は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成28年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年3月31日)
自己株式の帳簿価額	182,204千円	162,022千円
うち当社所有自己株式の帳簿価額	84,347	84,347
うち従持信託所有自己株式の帳簿価額	97,856	77,675
自己株式数	296,554株	287,954株
うち当社所有自己株式数	254,854	254,854
うち従持信託所有自己株式数	41,700	33,100

(3) 総額法の適用により計上された借入金の帳簿価額

	前連結会計年度 (平成28年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年3月31日)
長期借入金	144,560千円	144,560千円

(4) 債務保証損失引当金の計上

持株会信託は1年以内に信託期間の終了を予定しておりますが、持株会信託が借入債務を完済できず当社が弁済する可能性が予想されるため、当該弁済見込額について債務保証損失引当金を計上しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

預金、金銭の信託及び収納代行預り金

現金及び預金、金銭の信託の中には、収納代行サービス事業に係る資金が含まれており、これに見合う以下の収納代行預り金を流動負債に計上しております。当該収納代行預り金は、顧客の商品又はサービスの利用者が、コンビニエンスストア等を通して支払う代金を当社が収納し、顧客に送金するために一時的に預かっているものであります。

	前連結会計年度 (平成28年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年3月31日)
収納代行預り金	30,504,227千円	26,488,920千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年1月1日 至平成28年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年1月1日 至平成29年3月31日)
減価償却費	122,086千円	129,499千円
のれんの償却額	670	11,794

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自平成28年1月1日至平成28年3月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年3月25日 定時株主総会	普通株式	117,344	12	平成27年12月31日	平成28年3月28日	利益剰余金

(注) 配当金の総額には、電算システム従業員持株会信託が保有する当社株式に対する配当金1,140千円が含まれております。

当第1四半期連結累計期間(自平成29年1月1日至平成29年3月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年3月24日 定時株主総会	普通株式	117,421	12	平成28年12月31日	平成29年3月27日	利益剰余金

(注) 配当金の総額には、電算システム従業員持株会信託が保有する当社株式に対する配当金500千円が含まれております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自平成28年1月1日至平成28年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	情報サービス 事業	収納代行サ ビス事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	3,748,099	3,472,808	7,220,907	-	7,220,907
セグメント間の内部売上 高又は振替高	9,118	3	9,121	9,121	-
計	3,757,217	3,472,811	7,230,029	9,121	7,220,907
セグメント利益	89,866	146,893	236,759	36,929	199,830

(注)1. セグメント利益の調整額 36,929千円は、報告セグメントが負担する管理部門費の配賦差額であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自平成29年1月1日至平成29年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	情報サービス 事業	収納代行サ ビス事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	4,211,972	3,751,574	7,963,547	-	7,963,547
セグメント間の内部売上 高又は振替高	17,806	10	17,817	17,817	-
計	4,229,778	3,751,585	7,981,364	17,817	7,963,547
セグメント利益	236,101	150,301	386,402	21,788	364,613

(注)1. セグメント利益の調整額 21,788千円は、報告セグメントが負担する管理部門費の配賦差額であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年1月1日 至平成28年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年1月1日 至平成29年3月31日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	14円38銭	24円13銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額(千円)	139,305	235,223
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益金額(千円)	139,305	235,223
普通株式の期中平均株式数(株)	9,688,060	9,747,833
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	14円37銭	-
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額(千円)	-	-
普通株式増加数(株)	4,088	-
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	-	-

- (注) 1. 1株当たり四半期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定上の基礎となる普通株式の期中平均株式数については、電算システム従業員持株会信託が保有している当社株式を控除対象の自己株式に含めて算定しております。1株当たり四半期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定上控除した当該自己株式の期中平均株式数は、前第1四半期連結累計期間90,686株 当第1四半期連結累計期間37,312株であります。
2. 当第1四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成29年 5月 8日

株式会社電算システム

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 三富 康史 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 増見 彰則 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社電算システムの平成29年1月1日から平成29年12月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成29年1月1日から平成29年3月31日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成29年1月1日から平成29年3月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社電算システム及び連結子会社の平成29年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。